



国際ロータリー第2790地区
The Rotary Club of Yachimata

八街ロータリークラブ週報

<http://www.joy.hi-ho.ne.jp/yachimatarc/>

例会場 八街商工会議所 3階 大ホール

毎週水曜日 12:30~13:30

電話 043 - 443 - 3021

FAX 043 - 443 - 7221

創立 1966年(昭和41年)5月22日



国際ロータリー会長
K.R.ラビンドラン
(スリランカ・COLOMBO RC)

会長 西村 清 ・ 会長エレクト 鎌形 芳法 ・ 副会長 萬来 謙一 ・ 幹事 福田 守

第50巻 第15号

通巻 第2399号

27. 11. 18発行

第2398回 2015年11月11日例会報告

【出席報告】

SAA 荒木 由光

【会長挨拶】

会長 西村 清

例会	出席計算 会員数	出席	欠席	出席率%	MU	修正 出席率%
11/ 11	29	20	9	68.97		
10/28	29	24	5	82.76	2	89.66
会員総数 36名 (内名誉会員 4名 ・ 出席免除会員 10名) 通算出席率 91.4% 10/28メーキャップ2名・西村理事長・木村会員						



点 鐘 会長 西村 清

ソング 手に手つないで

【ニコニコボックス】

◇奥様誕生日・大畑喜信会員・増田繁会員

◇祭礼ニギワイ行事無事終了 西村 清会長

御天気はさらに秋から冬らしくなりました。土曜日曜は八街神社の例大祭に引き続き氏子区に分かれての市内賑わい行事が、二日目の悪天候にもめげず無事執り行われました。大きな事故もなく、またケヤキの森公園などの中心部の事後清掃も、祭礼委員の努力によって素晴らしく奇麗にキッチンと片付きました。また三区ではここ二三年で愛知県牧ノ原町からの参加者数名との交流が盛んになり、街の将来や若者の育成に加えて、他市町村との交流に広がってきたことの喜びがございました。ロータリーの活動も内外に広がるのと同様であります。

さて今週は次週のがバナー訪問について余り愉快でないお話もさせていただきますが、現実を受け止めて対処していくのも皆さんと共にと思いますので、報告をさせていただきます。これは理事の方は既に御承知ではありますが、本年の櫻木ガバナーは独特の感覚とお考えを比較的強く前面に出されるやに伺っております。ひとつは全てのクラブ訪問をご自身でなされ、原稿は書かないと事前通告されることもあります。各クラブにある「認証」を例会場に提示しておくようにとの

指示がございます。クオリティの高いクラブとして50周年記念事業遂行中の我が八街ロータリークラブがありますが、この50年前の認証が現在行方不明となっております。当日掲示を失念したクラブでは「免許もなく運転してるようなものだ」と辛らつなスピーチもあったそうですが、現在幹事と相談いたしまして、行方不明中であることと再申請の手続きを検討中であることを本日までご報告申し上げる次第です。小川会員からは50年前の発足当時の貴重な写真のご提供や、事務局は必死に資料を探しましたが、今日現在見つからないとの報告をうけております。残念なエラーではありますが、50年の実績をもって前向きではありませんが、正すべきは正す姿勢で参りたいと思います。皆さんいかがでしょうか？

最後になりましたがその正すべきものは正せということでは、ロシア陸上競技連盟のドーピング問題が世界のニュースとして昨日から駆け回っていますし、読売巨人軍の三人の投手の野球賭博への関与では解約解除、無期失格という重い処分となりました。このところ浅田真央選手の見事な復帰、ラグビー日本代表の大活躍と明るい話題で、文化庁に遅れながらスポーツ庁が発足し千葉県出身で水泳ゴールドメダリストの鈴木長官が就任されましたが、フェアプレーを学び、ルールとジャッジを学校体育で、社会教育で、国を挙げてのオリンピックで習得するスポーツ界が反省と評価を高めるよう期待したいと思います。

【幹事報告】

幹事 福田 守



◎国際ロータリーK.R.ラビンドラン会長より、当クラブ創立50周年に対し、祝辞をいただきました。

◎八街市社会福祉協議会より歳末たすけあい募金ご協力をお願い

◎受贈週報等

・成田RC ・白松の郷

【社会奉仕委員会からご連絡】

委員長 原 弘行



本日、皆様からご協力をいただきました、バザー出品の値付けをいたしますのでご協力いただける方はよろしくお願い致します。

なお、まだ出品いただいていない会員が十数名おりますので次週ご協力を併せてお願いします。

【富里RCへ台湾頭份RC訪日への参加報告】

原 弘行会員

昨日、富里RC夜間例会に台湾友好クラブの頭份RCが訪日され伊藤(嘉)、生形、関、山本各会員と私5名で参加いたしました。頭份RC25名の会員・ご家族と富里相川市長、富里RCの皆さんが参加されました。

会員紹介、各会長・富里市長挨拶、記念品の贈呈等の後懇親会に入り和やかな懇親、交流の後お開きとなりました。



頭份会長・富里会長と訪問した八街クラブの参加メンバー



相川富里市長の挨拶

【会員卓話】

萬来 謙一 会員



今日は卓話ということで私の昔話を聞いていただきたいと思います。

皆さん、モータースポーツという言葉を知っていますか？ 四輪自動車や二輪車を使った競技のことです。四輪自動車を使う競技には、サーキットという競技専用コースを使うレース、有名なのはF1レースです。その他には、一般道を使うラリーというものがあります。

F1については、八街にすごい人がいます。トヨタチームの元代表であり会長の山科忠氏は、2区の山科モータースの息子さんで、私は同級生です。平野さんのお話ではアメリカトヨタの社長のときはジョージ山科と呼ばれていたそうです。トヨタは今、F1に参加していませんが、将来再びF1に復帰してほしいと思っています。ちなみにF1には、500億のお金が必要だといわれています。彼はそれだけのお金を動かしていたのだと思うと凄いことだと思いました。このことは平野さんが詳しく、機会がありましたらお話を聞かせていただきたいです。トヨタは2017年に18年ぶりに世界ラリー選手権(WRC)に復帰するそうで、楽しみにしているところです。

ラリーの語源は“再び集まる”ということです。一台ずつスタートして、再びゴールに集まるということです。

私は中学2年生のときに、初めてラリーに参加しました。車は、日産のブルーバードSSSというスポーツカーのエンジンを載せたセダン型の車でした。そして、何回かラリーに参加しているうちに、第2回千葉県知事杯ラリーに運よく優勝しまして、ますますラリーというものに夢中になりました。しかし、普通免許が取れる18歳になっていませんので、運転はできません。助手席で地図を見てコースを指示、スピードの計算をするナビゲーター専門でした。18歳になって運転免許をとり。レースに必要なA級ライセンス、国際ライセンスも取りました。千葉をはじめ、東京、神奈川、山梨、群馬、栃木、茨城と関東一円走りました。

皆さん、サファリラリーという言葉を知っていますか。ケニアのナイロビを中心に開催されたラリーです。そのラリーを映画にした(栄光の5000km)石原裕次郎が主演でした。その映画の一部が富士スピードウェイで撮影されました。公式レースが一通り終わってから映画の撮影が始まり、私はそのときレースのオフィシャルとしてその場にいました。石原裕次郎が私の目の前にいてとてもかっこよかったです。その時撮影に使ったラリーカーが北海道小樽の裕次郎記念館に展示されています。私がロータリーに入会してすぐにYRCの北海道遠征で裕次郎記念館に行きました。その車に会えて、とてもうれしかったことを今でも思い出します。その旅行では、夜、先輩に連れて行ってもらった、ラーメン横丁の私と同じ名前の“萬来軒”が印象に残っています。

そして1982年9月(昭和57年)私が31歳のときにイタリアのサンレモという街で開催された、サンレモ国際ラリー選手権というラリーに参加しました。その2年前頃から、友達と計画を始めました。その友達は、その頃、全日本ラリー選手権に参戦してしまっていて、シリーズチャンピオンになったり、国際ラリーにも6回くらいナビゲーターとして参加していて、今度はドライバーとして走りたかったようでした。

準備の段階では、競技車両の選択からラリー車の製作、これは、車を車体だけにして、すべて取り外し溶接などで補強し、サスペンションの作成、エンジン、ミッション、デフなどスペシャルパーツを使って組み立て、これらは、静岡県浜松市にある友人の車両製作会社に依頼しました。そしてタイヤ、ホイール計120本の準備、この件に関しては、私の先輩がレースカメラマンとしてダンロップタイヤに交渉していただくことができ、無償提供してもらいました。ダンロップタイヤの条件はコースの調査、報告書の提出でした。舗装路面、ダートの路面は小石の大きさまで写真を添えて提出しました。タイヤメーカーもこのラリーの路面データが欲しいとのことでした。

車両ができあがったら、走行テストを繰り返し、トラブルを少しずつ改修して、完成させていきました。それらと同時に競技にエントリーするための申込書をイタリアから取り寄せ、申込みをしました。書類は全部英語で

辞書を用意しても私にはわかりません。そこで、当時黎明高校の英語の先生がお客さんにいらっしやいましたので、お願いしました。そして、翻訳していただき、無事にエントリーすることができました。

次に、車両、タイヤ、スペア部品一式などの輸送。競技車両がトヨタ車だったので企画書を持ってトヨタ東京本社に行き、車両運搬船で輸送してほしいと、お願いしました。イタリアには運搬船が行っていないので、フランスのニースに着く船に載せていただくことができました。フランスからイタリアまで陸路で入りました。

現地には約一ヵ月間滞在しました。ラリーのチーム編成は、我々二人と浜松のメカニック、もう一人、イギリスに留学していた友人がサービスクーのドライバー兼通訳として参加してくれました。彼も一流のラリードライバーです。我々がフランスに着いてから、イギリスにいる彼に連絡して来てもらったのです。彼はイタリア語、スペイン語などを話すことができ、大変助かりました。以上の4名で戦うことになりました。当日、スタート地点には日本の国旗が掲げられていて、大変感動しました。それから、現地に暮らしている日本人の方がわざわざ激励に来てくださいました。

結果は競技三日目に、スピードオーバーでコーナーを曲がり切れず立ち木に激突して車が大破し競技終了となりました。そこまでは我々の参加したクラスでは

トップだっただけに残念でした。完走はしなかったです。リタイアしてからは世界一流の車とドライバーの技術を観戦しました。目の前の砂利の路面、しかも道幅の狭いコースを、ものすごいスピードで走るラリーカーを見て怖くなり小高い丘の上に登って観戦しました。現地のイタリア人の観客はコース両脇で人垣を作るように並んで観戦していてとても危険だと思いましたが、それが彼らの勇気だと後で聞きました。とても危ないことです。しかし、その間をアクセル全開で駆け抜けていくドライバーはもっとすごいと感じました。トップタイムと2位のタイム差は15～30キロ走って1秒くらいしかないこともよくあることです。アクセルを緩めたら負けてしまうのです。一流のプロの世界とドライバーの技術は素晴らしいと改めて感心しました。

今、スタンドはバイパス道路計画で閉店してしまいましたが、ロータリーの職業奉仕でいえば若いときから車に携わり自動車競技に参戦したことで車の整備、エンジンの調整など一生懸命勉強しました。そしてお客さんの車、特にスポーツカーのエンジン調整は多くやりました。お客さんに大変喜んでもらったことを思い出します。これも職業奉仕の一つではないかと思えます。

以上、私の昔話でした。ありがとうございました。



ロータリー財団認証ポイントについて

認証ポイントは、積極的にお知らせするシステムになっていないため、ご自分がどの位のポイントを保有しているか把握していない方がほとんどです。

1ドルに対して1ポイントが付与されており、今現在の八街ロータリークラブの、クラブとしては17,611ポイント、個人としては各々寄付額に応じポイントが貯まっています。(事務局にご確認ください) ドルに換算するとクラブだけでも17,611ドル、レート100円として176万円分のポイントがあります。

～このポイントは自分以外の人に譲ることができます。～

例えばAさんの持っているポイントからBさんに1000ポイントを譲ればBさんは1000ドルの寄付をしたのと同じようにポールハリスフェローの認証を得ることができます。

お互いの話し合いでAさんからBさんに100ポイント、そのお返しにBさんからAさんに100ポイントという風にご自分のポイントを譲り合うこともできますので是非ご活用ください。